

# ほのぼの News Letter



No.8 2016年11月号

一般社団法人 ほのぼの運動協議会



## CONTENTS

- |   |                   |    |            |
|---|-------------------|----|------------|
| 2 | ほのぼの憲章            | 9  | 域学交流プロジェクト |
| 3 | 2016年ほのぼのフォーラム開催  | 10 | お知らせ       |
| 8 | フォーラム参加支援団体さまのご紹介 |    |            |

# ほのぼの運動憲章

—ほのぼのと夢ある社会を実現する運動—

わたしたちは、ほのぼの運動の活動を通じて日本の各地に夢と希望の灯をともし、ほのぼのとしたあたたかい場づくりを目指します。

## 一. 日本の食文化・農業への思い

からだにやさしい国産の食材を活かし、手づくり、本物づくりにこだわります。  
日本ならではの食を通じ、食べた人の心にほのぼのとしたあたたかみを伝えます。

## 一. 地球環境への思い

住みやすい地球をつくるために、包装・資材などの資源にこだわります。  
周辺の人たちと力を合わせて環境美化を心がけ、清潔・清掃を徹底します。

## 一. 地域コミュニティへの思い

街のほのぼののスペース、「私の街の私のお店」と思っただけのような店づくりをします。  
地域の人たちが安心して喜び集まるような、手のぬくもりが伝わる場づくりをします。

## 一. 働く意義への思い

売上の一部を社会に還元します。  
それによってスタッフみんながはたらく(傍楽)喜びを感じられる店舗運営をします。

## 一. “ほのぼの”を創りつづける思い

形のない“ほのぼの”だからこそ、お客さま、コミュニティ、仲間、スタッフ、みんなの  
“ほのぼの”を追求しつづけます。  
“ほのぼの”運動のさらなる浸透・発展を思い描き、真の豊かさを感じ、分け合います。

## 一. 未来への思い

未来のために、女性の社会進出・シニア世代の活躍など新しい価値観を創造し、挑戦します。  
お客さまとお店との絆、同じ地域という絆、家族の絆、働く仲間という絆、多くの絆のな  
かから、新しい社会を創造します。

## 一. 夢への思い

自分自身の夢を育み、仲間の夢を支え、お客さまの夢を大切にし、前進します。  
「夢は見るものではなく、叶えるもの、そして更に追い求めるもの」との思いをみんなと共  
有し、つねに忘れません。

### ■大河原毅理事長のあいさつ

みなさん、おはようございます。

早いもので、すでにこの運動が産声を上げてから11年目になります。当時、まだまだ女性の社会進出だとかシニア世代の活躍だとか、そういったことはあまり言われていなかったような気がしますが、今はもうテレビを見るとシニア世代、女性の進出というようなことが声高に叫ばれており、たった10年で相当世の中が変わってきたと思います。

10年前は、中国が大躍進の真っ最中で日本の農産物が全部中国に駆逐されつつあり、特に小豆はほとんど取って代わられるという状況でした。みなさんご承知のように小豆は北海道の裏作として農家の方々のなくてはならない収入源です。それを我々の力で少しでも守ろうというところから何ができるかを考え、国産の小豆を店で炊いて、それをお客様に提供しよう。さらに、その収益の一部を女性のことや子供のこと、シニアのことに使おうというのが、ほのぼの運動のそもそもの最初だったわけです。

それが今日では、単に鯛焼きだけじゃなくて、資材を入れてくださっている方、違うご商売をされている方などどんどん加わってくださって今の姿になってきています。さらに、我々の“日本への思い”に賛同して、アイルランド政府やトルコ政府といった外国の方々も加わってくださっています。

また、我々の日々の活動に、積極的に参加してくれる大学生の諸君、高校生の諸君もたくさんいます。あるいは銀座で、あるいは原宿で募金活動をし、またすでに来年の忘れな草を育ててくれています。我々が続ける意味はそういうところにこそあるのではないかというふうに思います。

その一つひとつの活動は、すべてここにいらっしゃる店舗の真心を込めてつくった一つひとつの鯛焼きから出発しています。「たかが鯛焼き、されど鯛焼き」という言葉どおり、鯛焼きの中にはものすごく売れる店もあり、社会貢献の原資も着々とたまってきました。ですから、そういう意味では我々は本当に小さい一つひとつの積み上げで、今の運動をつくってきたということが言えると思います。

ここから先、いいものは変えない、変えるものは変えようというふうに思います。ただ、ほのぼの憲章は変える必要がない。今政府がいろいろと言っている地域貢献とか地域創生とか、働く人のこととか、最初からカバーしてあります。ですから、我々のやっていることは間違いのない。むしろ、そういう基本のことに海外の方も心から賛同していただけるということだと思います。

ですので、今一度、店舗で働いている諸君、サプライヤーのみなさま、協力企業のみなさま、そして我々と一緒に同じような考え方で社会活動をやっていらっしゃる協賛先のみなさまと一緒に、このほのぼの運動を一粒一粒つづけて着実なものにしていきたいというふうに思います。今後ともよろしくお願いいたします。

きょうはありがとうございました。





## ■進化するほのぼのお好み鯛焼き本舗

2016年10月23日木曜日、秋晴れの空の下、第4回ほのぼのフォーラムを開催いたしました。場所は昨年と同じ東京・六本木の国際文化会館です。特別会員である「ほのぼのお好み鯛焼き本舗」加盟企業、加盟店舗責任者およびパートナー、協力企業など総勢約60名が集まりました。

今年は午後2時30分から4時30分までの2時間という、例年より短い時間でしたがとても内容の凝縮したフォーラムとなりました。

於保理事の司会で始まった第4回ほのぼのフォーラム。まずは、全員起立をしてほのぼの憲章の唱和です。今回は、おめで鯛焼き本舗戸越銀座店の栃原店長、おめで鯛焼き本舗アイモール三好店の西出店長のリードで唱和いたしました。年々、みなさんの唱和の声がそろい、大きくなっていることに、ほのぼの運動の発展が感じられました。

大河原毅理事長のあいさつ（前ページ参照）の後、田嶋ブランドマネージャーからほのぼのお好み鯛焼き本舗の新たな取り組みについての報告がありました。このほのぼの運動の根幹でもあるほのぼのお好み鯛焼き本舗は、2005年に鯛焼き専門店として始まりましたが、今年9月にオープンしたおめで鯛焼き本舗アピタ金沢文庫店を皮切りに、たこ焼きの販売、京都吉祥案とコラボした和菓子の販売が一部店舗で始まりました。

まだ実験というべき段階ではありますが、今後のお好み鯛焼き本舗の発展、ひいてはほのぼの運動の発展にどのようにつながっていくのか、とても楽しみな展開です。



## ■店舗表彰

続いて、各種表彰が行われました。今年は、7月20日から8月31日まで、お好み鯛焼きパステープレゼントキャンペーンを行いました。そこで優秀な成績を収めたお好み鯛焼き優秀賞をはじめ、売上対前年比優秀賞、オペレーション大賞、ほのぼの大賞の4部門で表彰を行いました。

受賞店舗は、次ページの表のとおりです。



プレゼンターは大河原毅理事長と大河原愛子会長



● 売上前年比優秀賞 ●

- 第1位 文楽焼き本舗 羽生パーキングエリア店
- 第2位 おめで鯛焼き本舗 戸越銀座店
- 第3位 糸びす黄金鯛焼き本舗 小田急町田店



● お好み鯛焼き優秀賞 ●

- 第1位 おめで鯛焼き本舗 戸越銀座店
- 第2位 おめで鯛焼き本舗 高崎並榎店
- 第3位 おめで鯛焼き本舗 湘南台駅前店



● オペレーション大賞 ●

- おめで鯛焼き本舗 ピオニーウォーク東松山店
- おめで鯛焼き本舗 高崎並榎店



● ほのぼの大賞 ●

- おめで鯛焼き本舗 高崎並榎店
- 夢ある街のたいやき屋さん The Peanuts 与野店
- 夢ある街のたいやき屋さん 宇都宮陽西通店
- 夢ある街のたいやき屋さん 若松町店
- おめで鯛焼き本舗 戸越銀座店



今回、ほのぼの大賞のプレゼンターを務めてくださったのは、儘田副理事長（写真左）。

ほのぼの活動を最も積極的に行ってくださいているお一人です。

## ■支援先団体への目録授与

店舗表彰に引き続き、支援先団体への目録授与式が行われました。中規模の団体で、ほのぼの運動といっしょに成長をめざす、そういった団体に対し、継続して支援・寄附をしています。東日本大震災以降は、特に東北での支援活動にも力を入れていただきました。

表彰された店舗をプレゼンターに、8団体へ目録を授与させていただき、ふだんの活動に関して一言スピーチをしていただきました。



## ■懇親会

その後、休憩をはさんで、第2部がスタート。中川理事の乾杯のあいさつで懇親会となりました。

ふだん店舗でがんばっていらっしゃるみなさんが唯一、一堂に会するのがこのフォーラムです。近況報告をしあったり、店舗運営の相談をするなど、しばし歓談を楽しみました。途中、協力企業のみなさんから一言ずつあいさつの言葉をいただきました。





再び、ひと息ついたところで、事務局より2016年の忘れな草プロジェクトについての実施報告と、2017年の実施計画についての説明がありました。2016年には表参道と代々木公園で配布した忘れな草ですが、2017年には新たに巣鴨が加わり、さらに1,500鉢を2,000鉢にふやし福島県内の協力企業で配布することが決まっています。こちらも一歩ずつですが確実に大きくなっており、ほのぼのの運動らしい発展をしている活動です。

また、忘れな草を毎年育ててくれている磐城農業高校が、10月15日に新校舎等竣工落成記念並びに創立73周年記念式典をされたのですが、そのときに上映された東日本大震災からの復興の歩みのビデオをお借りし、上映いたしました。震災から5年を経てもなお当時の映像は胸にこみ上げるものがあり、あらためて支援活動の意義を感じることができました。

その後、恒例のじゃんけん大会を経て、理事紹介、最後に安家副理事長のあいさつで閉会となりました。ほのぼの(honobono)は、イタリア語のボーノ(おいしい)を提供するオーナーの会として安全安心な食を提供しつつ、今後も意義あるものとして、参加者をふやしながら盛り上げていくと力強い言葉で2016年のフォーラムは締めくくられました。ご参加くださったみなさま、ありがとうございました。



# 参加支援団体

特定非営利活動法人 勇気の翼 インクルージョン



障がい者理解の「教育」と「就労支援」に係る活動を2つの柱とした事業を行っている。いのちの尊厳や共生の理念を育み、差別や偏見を持たない、「包み込む社会」の創造に寄与することを目的とし、「相互理解」のための交流イベントを通じた啓発にも力を入れている。

認定特定非営利活動法人 FoEジャパン



地球規模での環境問題に取り組む国際環境 NGO。日本では1980年から活動をしている。FoE ジャパンの活動は多岐にわたっているが、ほのぼの運動では特に福島の子どもたちを一時避難させる「ぼかぼかプロジェクト」を支援している。

認定NPO法人 フローレンス



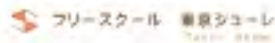
親だけが子育てする社会から、社会全体で子ども達を育てることがあたりまえの社会に近づける。そのために、一つの社会問題に対する「小さな解」を見つけ、実践し、育てる集団として、病児保育問題、待機児童問題、障害児保育問題などに取り組んでいる。

特定非営利活動法人 チャイルドライン支援センター



チャイルドラインは18歳までの子どものための相談先。子どもの話を聴くとともに、子どもの話に耳を傾ける大人を増やし、電話から見える子どもの現状を広く社会に発信していくことで、子どもが生きやすい社会の実現をめざしている。

特定非営利活動法人 東京シューレ



フリースクールの運営を中心に、学校に行っていない子どもとその親を支援するさまざまな活動を通して、不登校の子ども及び不登校を経験した子どもと、学校外の学び・交流を求める若者の成長と生活の権利を保障・拡大し、子ども主体の教育のあり方を創造・発展させ、学歴社会の変革に寄与している。

公益社団法人 マナーキッズプロジェクト



スポーツや文化活動を通じ、日本の伝統的な礼法を体験し、〈体・徳・知〉バランスのよい子どもを育てる。子どもの体力低下・運動能力の低下に歯止めをかける「体育」、挨拶・礼儀作法の基本的マナーとスポーツマンシップを習得させる「徳育」、運動で知性を育む「知育」を考慮したプログラムを実施している。

NPO法人 日本園芸療法研修会



NPO 法人 日本園芸療法研修会

1995年2月に園芸療法を正しく理解し、実践者育成とネットワークづくりを目的に設立した、日本で最も歴史のある園芸療法団体。園芸療法の普及・教育の他、施設における実践支援、NPOとしての社会貢献を目指して地域の認知症予防・介護予防事業や、東日本大震災の復興支援を継続している。

特定非営利活動法人 子育てアドバイザー協会



特定非営利活動法人  
日本子育てアドバイザー協会

核家族が進む中、子育てに悩み不安がある親が身近に耳を傾け相談に応じてくれる人もいないまま深刻な事態を迎えてしまうケースが増えてきている。そこで子育て相談の事例に応じて的確にアドバイスがおこなえる人として「子育てアドバイザー」を養成し、子育ての相談、子育てに関する情報提供を行っている。



## 第2回 域学交流プログラム

昨年の9月のテストランから始まった日本のよりよい未来のために、日本の伝統・歴史を若い人たちといっしょに学び、そこから新しい何かを創造するという取り組みが、域学交流プログラムとして正式にスタートしました。

ほのぼの運動協議会の理事長である大河原毅の母校である上智大学を中心とした大学生たちと、ほのぼの運動協議会の始まりであるジェーシー・コムサゆかりの地である北海道二海郡八雲町の人たち、そしてほのぼの運動のスタッフで、さまざまな年齢・立場から意見を出し合い、新しい何かを創造しようというプログラムです。

本来は、昨年と同様今年も9月に北海道・八雲町で開催予定でしたが、大雨災害の影響で実施が延期となっていました。そこで、11月26日、東京の上智大学のキャンパスで第2回域学交流プロジェクトを開催することになりました。

当日は、八雲町から岩村町長はじめ3名、上智大学と学習院大学から大学生が合計14名、ほのぼの運動からは5名、そしてオブザーバー4名が参加し、活発な議論を交わしました。

特に、2031年の北海道新幹線・新八雲駅の開業に向け、ハード面でのアイデアを豊富に持つ町や社会人（ほのぼの運動サイド）に対して、学生たちはいかにSNSなどを駆使して情報を発信し、人を呼び込むための仕掛けをするかというソフト面で多くのアイデアを出してくれるなど、お互いの強みを活かした情報交換をすることができました。

ほのぼの運動独自の新しい中核事業として、来年度も引き続き活動してまいります。



## ジェーシー・コムサ主催“ほのぼの杯”ゴルフコンペより寄附をいただきました



10月5日、神奈川県横浜市にある程ヶ谷カントリークラブにおいてジェーシー・コムサ主催のゴルフコンペ“ほのぼの杯”が開催されました。

年1回開催されるこのチャリティー・コンペから、参加協賛金、ペナルティ費などあわせて、606,106円を当協議会にご寄附いただきました。ありがとうございました。

## 京都大学 iPS 細胞研究所へ寄附をいたしました

昨年に引き続き、今年も京都大学 iPS 細胞研究所へ寄附をいたしました。iPS 細胞研究所は、2012年ノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥教授が所長を務められています。寄附金は、知的財産（特許）の確保と維持、優秀な研究者、研究支援者の確保、安定的な研究活動の支援、iPS 細胞研究の情報発信・普及活動、医療応用に向けた研究費としての支出などに利用されるとのことです。



## 2017年忘れな草プロジェクト始動！！

2017年の忘れな草プロジェクトがスタートしました。福島県内の農業高校3校に忘れな草の苗が送られ、育成が始まりました。ウェブサイト、facebookなどで、随時情報発信していきます。

過日は年に一度のフォーラムへの参加、お疲れ様でした。短い時間ではありましたが、いかがでしたでしょうか。今年も秋を感じられないようなお天気続きで、フォーラムの当日も暑い一日でした。が、11月には雪が降るなど一気に冬モード突入ですね。お陰でわたしのクローゼットの中は薄手から厚手まで何でも有りの状態が続いています。今年の大晦日はコタツの中で冷凍みかん？なんてことになるかもしれません。やっぱり、春夏秋冬のしっかりした季節が恋しいです。そうだ！来年のフォーラムは、がっつり夏模様の海辺で水着を着てBBQなんてどうでしょう？

事務局長 作間由美子

## ほのぼの News Letter No.8

発行日：2016年11月30日  
発行：一般社団法人ほのぼの運動協議会  
編集制作：ほのぼの運動協議会 事務局  
〒150-0022  
東京都渋谷区恵比寿南 1-15-1  
A-PLACE 恵比寿南 2 F  
TEL:03-5722-1070  
FAX:03-5722-7396  
問い合わせ：jimukyoku@honobono-undo.org